

供覽

内閣官房総務課

内閣書記官



参考

七月七日
陸軍省新聞班

在天津

原田歩兵大尉譯

河南湖北安徽
地方共匪(共產軍)の内幕

支那紙大公報所載

63

目次

序
(甲) 共匪の分子

(一) 土匪

(二) 潰軍

(三) 降軍

(四) 黃埔生

(五) 饑民及流民

(乙) 共匪の製造者

(一) 腐敗官吏土豪劣紳

(二) 官衙

(丙) 共匪の組織

(一) 紅軍

(二) 游撃隊

(三) 赤衛隊

(四) 婦女隊

(五) 兒童隊

(六) 革命委員會

(七) 區農會及鄉農會

(丁) 共匪の工作

(一) 恐嚇政策

(二) 打游撃及秋收鬭争

(三) 糧食の集積及兵器彈藥の受渡借

(四) 報復清野と獎勵する方法

(五) 宣傳

(六) 情報の打破

河南、湖北、安徽地方共匪の内幕

安徽の共匪（註其の行為為匪賊に等しきを以て共産軍を共匪といふ）はこの数ヶ月の間に三河尖、正陽関を陥れた。此等の地方は孰れも淮河の流域にあつて水陸の要衝に当り古より兵家の必ず争奪した所である。此れ等要衝の地が陥つた為北邇安徽の千里の平原は全く震駭した。更に北は津浦隴海線より南は首都に至るまで防備出来ず、全共匪の現在占領せる地域は河南の商城、固始、安徽の英山、霍邱、壽縣、湖北の旧蕪州府管下に及び或は全縣陥落し或は僅に縣城を保ちある有様であつてその赤き焰は鳥の翼を張れる如く猛悍に縦横千里に廣がりその猖獗の状況は湖南江西にも劣らず、やがて中原の靡爛する日は目前に迫つて居る。共匪が初めて霍山西鎮に起つた當時は小銃は十挺にも定らず人は百人にも満たず深山幽谷の密林中に出没して居つたので、

あるが当局は毫も意に介しなかつたが為一二年
の中にかくの如く蔓延してしまつた。語に曰く「
点の火も燎原となり一滴の水も大河となる」と
信なる哉。信なる哉。近頃被害民は煩悶焦燥連
りに請求するけれども当局は何れの日にも民を
水火より救はんとするものであるか最近危険を
冒して匪中より脱れ来つた者の話により
その梗概を左に略記して匪禍に心を寄する
人士に告げよう

(甲) 共匪の分子

(一) 土匪

民國十六七年の頃河南の土匪は大属、麻埠
流波撞の各地に出没して居つたが遂に撃手
退せられた。十七年の冬再び旗を揚げて起
り號して紅軍と稱へ其の地方の土匪も悉
く之に加入した。これが抑も共匪の濫觴であ
る。現に此等の輩は今尚その匪中にあ
つて主要の位置を占め、その惨忍無道の行

為は多く彼等の主張する處によるものである

(二) 潰軍(敗残兵)

黨軍(國民黨軍)の北伐に際してはその進路を英、霍にとり河南に進入したのであるがその途中に於て屢々潰散し彼等は叢山深谷に逃避潜伏した。而して紅軍の蜂起するに及んで影の形に添ふ如く附き従ひ遂に虎に翼を附した如くになつた

(三) 降軍

十九年六安駐屯の某軍の一部が兵変を起して紅軍に投じ二十年三月潘善齊の英山駐屯防軍が敗潰し二千餘挺の銃器を失つた。此年の七月張の軍隊は英山に駐屯し完全に兵器を収めんとしたが一つも取り戻したものはなかつた。其他兩軍は終始互に交綏して居つたので銃を携へて紅軍に投降するもの数知れずあつた

四 黃埔生

廣東の黃埔軍官學校の前後期卒業生は無慮万を以て數へる程あつた。政府は其の中より順良にして統御し易きものを選択して之を採用した。其の中の少数の者は束縛を脱して不羈獨立し野心満々の徒であるが其他大半の落伍者は其の慾望は高きも仕事なくブラ／＼し居るため遂に身を危険の巷に投ずるものあるは固より当然である。現に該匪中の知識ある分子は大半之に屬してゐる。

五 饑民及流民

戦争興つて以來生産は減少し物價は昂り貧民の生計はどん底に陥つた。加ふるに連年の出水旱魃により各地に喧々たる叫びが挙つた。此に於て共匪は到る所に打富救窮を高唱して窮人の心理に迎合した。各地の愚民は先を争つて之に趨つた。

軍事略定まるに及んで故意に吹聴して動
もすれば刑網に觸れ無惨にも殺戮さるもの
は多くは此等の輩である。後悔するも及ばない

(乙) 共匪の製造者

(一) 腐敗官吏土豪劣紳

輓近官界は腐敗その習となり劣紳悪
徒は縁類を頼りて悪事をした。二三年前
歳に大軍が省境を通過したことがあつた

その時大枚を供應したので府縣は租税取り
立てを名目に大いに漁夫の利を占めた然し

富豪は年貢利息を倍加して農民から榨取
した為愚民は敢て官吏を仇とせず反つて
富豪を怨むこと甚だしかつた。而して紅軍
が入境するに及んで富豪は逃亡して家には
主なく貧民の取るに委し携ふるに任せた
平日の心に戻つても現実の利がある為其
の歡迎の熱烈なること大旱に甘露を得た
如くであつた

(二) 官衙

の各縣の黨執行委員は大部分年少氣薄の者であつて常に打倒、肅清、剷除等の名詞を口癖としてゐるがサリとて終日何の仕事もなく甚だしきに至つては詐欺の請負をなし賭博を打ち女を買ふ。偶々党外の者に失言があると之を反動分子と稱し假令人民心に怒るも敢て口外せず恨を含むこと已に久しかつた。紅軍一度到るや此と反對に宣傳する為無智の民衆は殆くど彼等の藪籠中に入つてしまつた。

向某主席は平素共匪討伐を重視せず故に下縣より急を告ぐるも動もすれば此を握り潰し万不得已に至つて始めて雜色軍隊を派遣して之に對應せしめた處が如何せん此の種の軍隊は半ば匪賊を以て編成したものであるから一度匪に接近すれば磁石の針の如く引きつけられてしまつた。

故にこの二年間に該匪の得た多量の銃器は皆某公より拜領したものである。そこで或者は(安徽殺人株式会社)と稱し又某公は其の最も大株主だと言つた。

(丙) 共匪の組織

(一) 紅軍

紅軍は共産黨の基本軍隊である偽軍部の指揮を受け青年の有識、有資格者を以て之に充て、ある故に該黨に於ては無経歴者はその位置に坐ることが出来ない。又武器は完備し、武技に精熟しある為強大な敵軍でなければ戦線に出ないのである。故に勇敢敏捷な事は虎狼の如く雑色の貧弱な國軍を以て之に当るも卵を石に投ぐる様なものであつて忽ち潰れること必定である。

(二) 游撃隊

游撃隊は紅軍の次に位するものであつて縣

「ソウキト」の節制を受けてゐる。其の武器は機関銃、小銃、大刀等を適宜配合し其の隊士は学生過激分子投降兵を以て之に充て一定の駐屯地なく忽ち東忽ち西と流水の息むことなきが如く活動するものである。平時は他軍隊を襲撃し、土豪を捜査し戦時は第二線の防備に当る。紅軍はその後方にあつて之を監督する。

(三) 赤衛隊

共匪の占領地区には数里以内に必ず一の郷農会が組織され各会には赤衛隊若干名が置かれる。革命委員会区農会は孰れも此れを動かすことが出来る。其等の者は土豪の郷愚を選んで之に充てる。而して其の武器は僅かに刀矛獵銃の類であつて専ら命令により人質を搜索拉致するのである。土豪の首であるから事情に精通しある故富豪の家の珍品は假令断崖絶壁に隠匿

するも一つとして運よく弁見から免れるもの
はない。戦時に當つては第一線に駆け赴き故
意に羸弱の態度を示して敵を誘ひ之を
犠牲に供するのである。

四) 婦女隊

婦女隊には二つある。その一を先鋒隊といふ。
年若き美人を以て之に充てる。國軍と敵對す
る時には常に最前線に赴きモグロンの装を
凝らしてダンス式に作りエロを弁散して老
郷の同志に向ひ「打つなくてお止しなヤン／＼
いらつしやい／＼」と呼び掛ける。すると遂に不知
不覺矛を收めて附いて来る。

他の一つは慰勞隊と云ふ。先鋒隊の落選者
を以て之に充てる。専ら裁縫洗濯戰士の
看護等に從事する。男女の結婚に至つては
兄弟姉妹孰れも勝手に融通することが出
来る。恋愛の自由旧制の束縛打破を主張
する。然し強迫暴行の行為ある者は必ず

極刑に處し毫も假借しない

(五) 児童團

赤区内の十五才以下の児童を以て之を組織する人数には規定なく大人が之を統率してゐる死刑がある毎に刑場を圍んで觀覽せしめて彼等の残忍性を養生し併せて他日の鬪將を作らんとしてゐる。常に村落を遊行し標語を貼り傳令に住じ匪中禁煙禁酒の旋を楯に人家に至つて煙管酒壺を拵見して之を打ち壊して樂しみとしてゐる。其の他には用事はな

(六) 革令委員会

革令委員会は匪中の政治機關であつて戦時に之を設ける。軍事停止せば即ち某縣ソヴエトと改稱し主席一を設け土蕃の農工中より質樸の者を選んで之に充て甘言を餌に承諾せしめる。匪は農工政策を「スコトガン」としてゐる關係上その徽章標旗は斧鎌形を表してゐる。此はその意味からである。

別に党代表一を置き文筆の心得ある主義を
精解する強悍の者を選んでこれに充てる
其の職権は則ち主席を操縦して各委員を
指揮するものである。従つて縣内に於ける最高
権威者である。更に其下に甫反裁判文化軍
事、経済、土地糧食の七委員会があり各会
に主任一会員若干名を置く。又秘書處があ
り秘書書記若干名を置く要するに夫々職
買は設けあるとその重なる仕事は人質を取り
殺人を行ひ財物を搜索掠奪するに外なら
ない

乙 区農會及郷農會

区農會は各区に一つあり革命委員会に隸
属し郷農會を管轄する。而して該共匪
が捕虜掠奪したものを搬送する所である
委員七名を設け革命委員会と同じ名
稱を附して居る。而してその土著の愚民惡
徒を以て之に充て、ある。其の下に郷農會が

ある、土地回制の一保を管轄し委員は同
区会と名づけ人選も亦区農会と同様であ
る其の任務は則ち土地の分配契約書の調
製破棄、土豪の捜査糧食の輸送富農
よりの徴税等である蓋し縣革命委員
会の命令を奉じて向ふ見ずに狂行する虎
の如きものである

(1) 共匪の工作

(一) 恐嚇政策

共匪軍が部落を征服するには最初四周に
兵を配置し村中を搜索し皮膚の白き
身形の整へるものがあらば縦に土豪劣
紳の名稱を與へ之を数珠繫にする。
而して犬羊の如く駈け廻つて毎日必ず
弍見捕へて之を殺す腐つた屍は街路
に充ち血流は地に漲り民衆をして見るに
忍びず戰慄恐怖せしめるものがある

唯命令のまゝに謹んで行ひ故らに人から見

られないように勉めてある。従つて命令の行は
れないものはない之を恐嚇政策と云つてある

⇒ 打游撃及秋收斗争

共匪が駐軍する處には日々隊を派遣して掠奪をする。之を「打游撃」と謂つてある。蓋し此は匪中間の劫奪といふ名詞である。赤区に於ては極力隅から隅まで搜索するは勿論多数の苦力を拉致し各々扁杖を持たしめる。此を「扁擔隊」と名づける。近隣の白区に押し掛け財物を掠奪する時若し防備隊の襲来に遇へば扁擔隊は重いものを負つてノソリく
と行く。従つて大部分は殺さるてしまふ。
秋来つて五穀が市場に上る時期になれば大群を組織し夫々白区に向つて専ら糧食の掠奪を行ひ以て匪巢を充実する。此を名づけて秋收斗争といふ（共匪は已占領地を赤区と呼び未占領地を白区と言ひ國民民團を白匪と稱してゐる）

(三) 糧食の集積及兵器彈藥の愛惜

共匪は金銭を第一に重んじ次に糧食と彈藥を大切にす。糧食は白区より掠奪するは勿論のこと赤区の貧民にも一定額を分納せしめ多量の糧食を匪窟に貯へる。兵器彈藥は人質から無理に出さしめる外高價を甘言にして多糧買込む。作戰する時には常に小銃一対して三名を割り當て人員は假令如何に犠牲が出来ようとも兵器は決して放棄するを許さない。平素殺人する場合にも未だ嘗て浪費したことがない。嘗て或る所に死者があつた。其の屍を始末せんと欲し數円を出して一彈を買はんとしたが許されなかつた。彼等は國軍の戦線に接近すると往々にして鉄(銅壳)を抛げて彈を引き寄せることがある。

(四) 報復清野を獎勵する方法

共匪は大いに階級鬭争を主張する故に

地方の不良分子は平素些細の事にも相争って報復する。それは口訛、文書、孰れも歓迎するのである。報告があれば隊を派遣して包圍し其者を縛り上げ其財物と掠める。如何に誣枉せられても辯訴の権利はない。甲が乙を訴ふれば乙を縛り丙が甲を訴ふれば又甲を縛り丁が丙を訴ふれば亦斯の如くし、順繰りに拘引し瓜蔓の如くに連行する金銭を以て刑を贖ふものは別として其の他大部分の者は首を連ねて殺される。一地を占領する毎にまず現金を取り上げ次に首飾、次に布疋次に家畜、次に糧食とあるだけのものを匪巢に搬入する。従てそれ等の地方は家は岩家の如く食ふにも蓄の糧食なく、鼠雀の外に家畜なく、鋤鋤の外に金物は殆んど見當らない。清野を勵行して國軍の進軍討伐に困難を感ぜしめる。計略としてこれほど甚

だしいものはない

(五) 宣傳

赤区内の人烟稠密の處では日々衆を聚めて演説する曰く「紅軍は人民の苦痛を排除しに来たのである。農工同志諸君、諸君が汗と血で流して得た金銭は皆土豪が搾取して諸君を苦しめてゐるのである。土豪を倒すことが即ち諸君の進む可き路である。彼等は民衆の十分の一を占むるに過ぎない。諸君は九對一の敵に対して何を心配してゐるのか。彼等は往自官廳を笠に着て諸君を壓迫した。現在我々革命軍によりて貪官汚吏は皆打ち倒された。諸君は何を恐れて居るのか。天を見よ、日月皆之れ公のものである。独り地上の物のみがどうして彼等の私有であるるか」と説き終るや「打倒土豪、打倒土豪」と大声連呼する。聴衆は俯仰せず拍手喝采すること雷の如くである。

(六) 情實の打破

共匪は肉親關係を大公と見做さない故に
極力せと打破するに勉める。茲に特に數例
を挙げてその一斑を窺ふことにする。

(一) 六安の晁といふものは共產黨員であるが其
の父は富紳で曾ては駐防軍に従軍して
わた、或日捕へられて大衆の面前に曝され
「晁某は本席晁氏の父であるが曾て白匪
の首領であつた本日のことは何人としても
私事として公事を疎にする譯には行か
ない何卒公決された」と。衆は死刑に
決した。晁は賛同を表した。そこで衆曰く
「晁同志は大義親を滅す即ち真正眞銘の
革命分子である」と。

(二) 霍山に劉といふものがあつて冬島をとして居つ
た。其の姉の主人は富豪であつたので捕へ
られた。其の母や姉は泣いて救援を求め
たが公事は公言でやるのであると諭され

に卒に死刑に處せられることになった。其の母や姉は死を以て誓ったが隠して會せなかつた。

(ハ) 英山の段君は陸軍の高等校を卒業し曾ては侍従武官をして居った。住民が十六軒ある所に駐防してゐる時或盜賊を殺した。紅軍が来つて盜賊の多數は之に加入した。其一族も段と共に捕へられた。殺害する時匪は其の親族の者をして刑を行はしめた。段の名を叫んでどうして之を殺すことが出来たろうか。

(四) 又某氏は捕虜になつたが匪中に舊生徒が新に黄埔軍官高等校を卒業して歸校した者が居ったのを見て遂に方法を講じて釋放されんことを頼んだ。生徒曰く「生命のことは心配するに及ばぬ罰金である。我々は私人の感情や師弟の情誼を去つた。彼此言ひ給ふな」と。釋放される時又歸

つて行つて若し再び教育に従事するこ
とがあらば舊式の礼教を青年に教へて其
の善協性を養成し弱國の媒とし給ふな
等と言つた。

以上各種の例を以て見るも唯驚くの外
はない。夫れ人情には元々余り變りはない
筈である。然るに一度麻醉に會へば遂に
人の性は好くもなり悪くもなる。奇なる
哉。

終